

四上下、五上下 著者同。

宮内省の令達により嘉永六年六月より明治四年七月に至る間國事并に時勢に關する肥後藩の文書を蒐集して宮内省に奉呈する爲編纂せるもの也(大正二)

チ、西南記傳、上中下、一二、(六冊)黒龍會  
リ、熊本市飽託郡誌 著者 角田正治

二、教授上の工夫

取り立て、報すべき事項なし

三、イ、通俗教育會

縣教育會の社會部の仕事として郡部各地に行ふ師範學校、中學校、女學校等より講師出張する事あり

ロ、婦人會

ハ、母の會

或る地方にては其の處の小學校主宰となりて此を行ふ。

右に關する出版物

附屬小學校研究報告(第五號民育號)

四、習字

書体 草書の必要を認めず

行書を中心とし其初步に於て楷書より入りては如何。

大書 大書の必要を認めず。細字中に幾分の大小を區分しては如何。

作文 書翰文全廢に就きての意見。

書翰文、口語体併用しては如何、但し長上には書翰文を用ひ同輩及び目下には口語体を用ふるも妨げず書翰文は簡明にして嚴格の態度あり且書翰文の上乗のものは心情を寫すこと

口語文に劣らず。

口語文専用につきて。

口語文を主とし普通文を加味す

實用方面に於ては口語文を取る、されは下級に於ては專口語文を課して思想の自由發表をなさしむ。上級に於ては實用を離れ趣味として多少の普通文をも練習せしめたり。

■岐 阜 縣 館 つ ね

一、神谷道一著 關原合戰圖志。

岡田啓著 新撰美濃誌。

西濃聯合教育會著、西濃人物誌。

藤蔭遺稿。其の門弟等編

鉄心遺稿 全 上

二、圖書閱覽室

三、大垣町立圖書館

四、中川先生の御意見と同様に日頃感じ居候

■大 分 縣 森 と み

一、白杵小鑑(地、歷鶴峰戊申著)

瑞穂歌集(文學、白杵藩主稻葉雍通作 久保千尋輯)

二、御報申上ぐべき程の事此なく候。

三、教育會附屬通俗談話會。

四、四の問題は學校が社會を指導すべく全國一致強き決心を以て致し候は、目的を達し得べく候も然らざれば實行甚だ困難と存せられ候。

1、習字につきて。

イ、同 感

ロ、大体に於ては至極同感但し標準大の字に習熟せしむる準備としての範圍に於ける大字

の必要は免れざるべしと存じ候。

作文につきて

イ、同 感

ロ、イ、の問題が解決せられ候は、自然解決せらるべく趣旨には大賛成に候も現代の社會狀況ことに當地當小學校の現況としては不可能の事と存じ候。

■千 葉 縣 稻垣のぶ子

一、下總國舊事考(清宮秀堅著)

香取郡誌 山田角次郎編纂

房總記要(千葉縣)

偉人 伊能忠敬、加瀬宗太郎。

二、

三、

四、字体——勿論實用向なる書体を主として習はしむる事は必要なるもやはり習字をなす以上はその字畫の最初(楷書)より出發せざるべからずと考ふ、さなくばその字の正しきを會得するに難からん。

候文——從來の候文体の價值を認む。たゞそ

の習慣的用語、句例を脱せる普通用語にてあらん事を望む。

■ 廣 島 縣

筒井 たか

一、三原志禍一卷 故青木充延編纂 澤井常四郎増補 (五四二頁) (地、歴に關する記事)

藝藩運志 三卷 岡田俊太郎編輯 一三三〇頁

嚴島志 一卷 重田 定一著 二一〇頁

福山志科、二卷 菅 普 師 約六〇〇頁

外に廣島縣誌あり。

二、書取帖のこと、毎週一回出させ候、新、難語句を四回づゝ繰返し書取らせ申候、

作文帳のこと、清書帳練習帳共に目次番號を作らせ申候、整頓して檢閲にも頗る好都合に候。

新任教頭五十嵐氏につきて當校の文科に關する設備につきて新しと思はれたるものゝ有無を尋ね候

ところ「別段新らしといふ事はなきも世に良しと云はるゝ程の事は努めて試みある事に感じたり」

との事に候序に申上候

三、一、婦人會、これは當校長會長にて教員中に幹事三名あり、幹事ならぬものも開催は本校講堂

を四回づゝ繰返し書取らせ申候、

作文帳のこと、清書帳練習帳共に目次番號を作らせ申候、整頓して檢閲にも頗る好都合に候。

新任教頭五十嵐氏につきて當校の文科に關する設備につきて新しと思はれたるものゝ有無を尋ね候

ところ「別段新らしといふ事はなきも世に良しと云はるゝ程の事は努めて試みある事に感じたり」

との事に候序に申上候

三、一、婦人會、これは當校長會長にて教員中に幹事三名あり、幹事ならぬものも開催は本校講堂

を用ひれば女教員は凡て役務に當り申候。

一、音樂會 (年一回) なるべく市中の人々の

一、展覽會 (全 上) 來會の便宜を計り申候

四、一、習字につきて、實用的文字といふ意味は甚

賛成なるも毛筆使用せらるゝ間は矢張大字練習

必要に候そは細字をのみ初より練習せしむる事

は却つて大字にて筆務を覚えさせてするより上

達遅きものゝ由に候。三体につきても主として

行書のみ一体が必要には候も楷書より入る事練

習上々達に便に候よし習字教師の意見に候。

一、作文につきて、大々の賛成に御座候早く口語

体時代の來らむ事を希望いたし候。

■ 朝 鮮

金 田 ま さ

一、朝鮮地誌

日韓書房編

全

吉田英三郎著

朝鮮通史

林 泰 輔 著

三國史記

剪 燈 記

高麗史

九 雲 夢

東國通鑑

文 獻 備 考

朝鮮美術史

韓 語 研 究

念黎室記述 朝鮮俚諺集

二、一、研究會 文科部理科部体育部技藝部の研究會を毎月數回開き居り候

一、各學年各級研究會 小學校を中心として教授法と各校提出の諸問題につき討論會を催し

中等學校よりも出席致し候

三、キリスト教青年會

朝鮮教育會

愛國婦人會支部

四、習字時間の不足を感じ居り候少くも一週二時間を欲し候同時に實用的方面の練習(手紙、又は受取證書の如き)少き感御座候

■ 群 馬 縣

堤 は な

一、上野名跡考 富岡 正忠著 群馬縣のもの

上野名跡志 富田 永世著 として

上野 史談 堤 辰二著 として

高 崎 志 川野 邊寬著 一部分のもの

高崎歳時記 土尾 老平著 として

高崎藩神名帳 田中 毛郎著 として

高崎 砂子 不明

地方凡例錄 大石 久敬著

上野古碑考 土屋 老尹著

寺尾城釋史 堤 辰二著 其他參考書

癸卯災異記 川野邊 寬著

箕輪 軍記

二、實社會に出でゝより活動しうる者と作るべく實用に力め居り珠算を課し辭書の引方を練習せしめ習字作文に於ても卷紙葉書に案なく早書せしむる事もなし居り候郡部の者多く候爲め女子の心得べき一通りは淺くも手ほどきだけはなしたき心にて手工も盆栽の事も琴も活花も揉按術も養蠶も課し居り候教師は少くも生徒の習ふ事だけは心得べく細目の打合もなし居り小學校と連絡も多少とり居り候教具につきては体操袴(高崎式)きりふき(裁縫及洗濯仕上用)など工夫致し居り候。

三、宗教的のものに候へども市内長松寺に一月一日修養會開かれ名士の講話これあり候。

四、何れはその時代の來るべきものと、御高説結構に拜讀致し候。